



# 校長のつぶやき

福井市長橋小学校

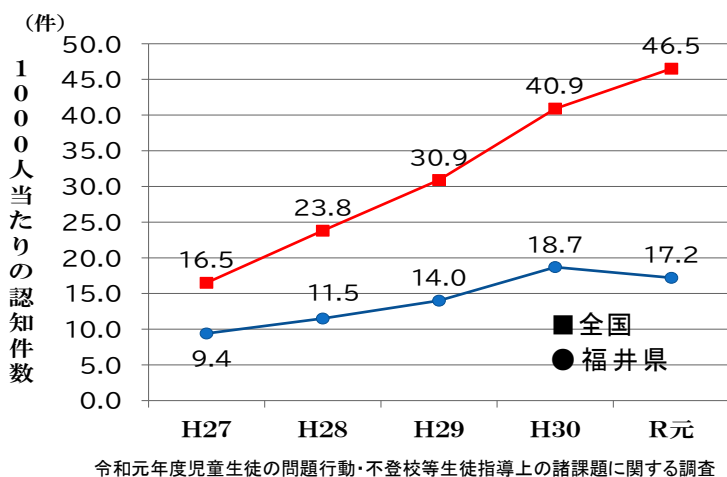
R 3 . 6 . 1 4

「質問です。校長！近年のいじめの『認知件数』はどのような推移？」

以下には、文部科学省が毎年行っている調査結果に基づいたデータをお示しします。令和2年度の結果は、現時点、公表されておりませんが、元年度までのデータであることについて、ご了承願います。

さて、下のグラフがいじめの認知件数の推移です。保護者の皆様は、この結果（経年比較、全国と福井県との比較等）をどのように捉えますでしょうか。

児童生徒1,000人当たりの認知件数(国公私立 小・中・高・特支)



## 【かすかなつぶやき】

いじめの件数の呼称は、「認知件数」です。しかし、平成17年度分の調査までは、「発生件数」と呼んでいました。呼称の変更と併せて、いじめの定義(判断基準)も大きく変わり始めました。

いじめという行為は、そもそも大人(第三者)の目には見えにくく、完全に発見することは困難です。教員が認知できた件数は、あくまでも真の発生件数(どこまで特定できるかは疑問であるが)の一部に過ぎません。限界のある数字でありながら、あたかも客観的に全体を把握したものと誤解させる「発生件数」という表現を使い続けることは、いじめに対する無知や無理解を示しているということになります。

\*参考「国立教育政策研究所：生徒指導リーフ」

同じ調査の結果(上記同様元年度)から、次の数字をお示しします。これは、児童生徒1,000人当たりの認知件数が多い都道府県と少ない都道府県を示したものです。

## 多い都道府県

- ①宮崎県：122.4件
- ②山形県：115.7件
- ③大分県：93.8件

この数字の大きな差は、一体なんなの？

## 少ない都道府県

- ①佐賀県：13.8件
- ②富山県：16.5件
- ③愛媛県：16.5件
- ④福井県：17.2件

上記の数字を見て、どのようにお感じになられたでしょうか。福井県の認知件数は、全国で低い方から4番目です。喜ぶべきことなのでしょうが、それとも、憂慮または危惧すべきことなのでしょうが。

各ご家庭において、お子様を交えながらこれらの数字等について語り合っただけなら嬉しいです。

※次回は、「この数字の大きな差はどう解釈したらよいのか」等について、いろいろとつぶやきます。今回も校長のつぶやきにお付き合いいただき、ありがとうございました。